

「水稻生産における鶏ふん堆肥の活用に向けた技術者向け説明会」

【日時】令和8年8月4日(火) 開催 13:00

【場所】県立総合技術研究所農業技術センター講堂

広島県では、県内で多く産出されている鶏ふんを、化学肥料の代替として農作物に利用できるよう、令和5年度から鶏ふん堆肥を活用した実証ほ場を設置し、施肥基準を策定するなど、輸入資材に依存しない持続可能な農業の確立に向け、取り組んでいます。

また、JA 全農ひろしまにおいては、耕畜連携・資源循環型ブランド「3-R（さんあーる）」をはじめ、鶏ふん堆肥を活用した農産物の高付加価値化に取り組んでいます。

この度、これまでの実証結果を取りまとめた「広島県における鶏ふん堆肥活用の手引き」を作成しましたので、その説明をするとともに、鶏ふん堆肥の有効活用に向けた取組内容について、主として水稻生産を支援する指導者・技術者等を対象とした説明会を開催します。つきましては、次のとおり開催いたしますので、ぜひ取材をお願いします。

- 1 主 催：広島県、全国農業協同組合連合会広島県本部
- 2 日 時：令和8年8月4日(火) 受付 12:30 開催 13:00～15:30
- 3 場 所：県立総合技術研究所農業技術センター講堂(東広島市八本松町原6869)
- 4 内 容：県産資源である鶏ふん堆肥の活用促進に向けて
 - (1)「広島県における鶏ふん堆肥活用の手引き」について
・農業技術センター生産環境研究部 副部長 浜名洋司
 - (2)鶏ふん堆肥の有効活用に向けた全農・広島大学との共同研究に関する取り組み状況について
・全農ひろしま 営農資材部 次長 片島恒治
 - (3)県内における鶏卵の情勢について
・全農ひろしま 畜産部 鶏卵課 土井徳亮
 - (4)鶏ふん堆肥活用農産物の高付加価値化の取組について
・全農ひろしま 改革推進部 改革推進課 課長 狩谷伸午
 - (5)意見交換

